

## 日本語・日本事情遠隔教育拠点報告 2020

伊藤 秀明 小野 正樹 文 昶允  
日暮 康晴 馬 雯雯 ヤクリン ペトラ

### 要 旨

本稿では、2019年度後半から2020年度に日本語・日本事情遠隔教育拠点で行った事業について報告する。1) 日本語・日本事情遠隔教育拠点の開始と同時に開発が開始された「筑波日本語eラーニング」を閉鎖したこと、2) TTBJのHTML5への改修とHPの多言語化、3) 生活日本語アプリ「にほんごアベニュー」の開発、4) 日本語・日本事情遠隔教育拠点の情報を配信するニュースレターの開始他について述べる。最後に、本年度は第2期から第3期への移行期であったが、本年度から始まった第3期の5年間、今後どのように拡大していくかについて述べる。

【キーワード】 教育関係共同利用拠点 遠隔教育 多言語化 Flash

## 2020 Report on the Center for Distance Learning of Japanese and Japanese Issues

ITO Hideaki, ONO Masaki, MOON Changyun,  
HIGURE Yasuharu, MA Wenwen, JAKLIN Petra

**【Abstract】** This paper reports on the projects conducted by the Center for Distance Learning of Japanese and Japanese Issues from the 2nd half of the fiscal year 2019 to the 1st half of the fiscal year 2020: 1) the closure of “e-Learning for Japanese at University of Tsukuba,” which was developed at the same time as the Center was established; 2) the modification of TTBJ to HTML5 and the addition of multiple languages to the website; 3) the development of the Japanese language learning application for daily life, “NIHONGO Avenue,” and 4) the start of a newsletter to distribute information about the Center. Finally, we will mention how the Center will continue to expand during its third phase.

**【Keywords】** Education-related joint-use center, distance learning, multilingualization, Flash

## 1. はじめに

本年度（2020年度）から日本語・日本事情遠隔教育拠点（以下、日日遠隔教育拠点）は第3期目を迎え、新たな5年間のスタートを切った。本報告は2019年度の秋から2020年度の秋までの第2期から第3期への移行期の報告となると同時に、新型コロナウイルスの蔓延により、遠隔教育が社会的にも重視された時期の報告でもある。こうした背景も踏まえながら、本稿では2019年秋から2020年秋までの日日遠隔教育拠点の活動の報告をする。

## 2. 筑波日本語 eラーニングの公開終了

日日遠隔教育拠点の開始と同時に開発が開始されたのが「筑波日本語 eラーニング」である（図1）。2010年に開発が開始され、2014年4月に一般公開、2020年8月の公開終了までに129カ国12,688名がユーザー登録をしていた（開発コンセプトについては、市原ほか2012、今井ほか2013を参照）。

「筑波日本語 eラーニング」は、筑波大学の中には研究などが忙しく、日本語の授業に参加したくても参加できない留学生がいたことから、実際の日本語のクラスに参加せずに、日本語を学習するための完全独習型の eラーニング教材というコンセプトで開発された。完全独習型を実現するために、バーチャル上に教室場面を設定し、教室の中でマ



図1 筑波日本語 eラーニング

り先生や他の学生とともにビデオなどの説明を見た後に、クラスメイトとコーラスをしたり、練習問題に取り組んだりしながら、初級レベルの日本語学習を完結させるというものであった。完成した教材は当初の予定通りに完全独習型という形で利用されたほか、グローバルコミュニケーション教育センターの日本語の授業でも週1回、PC教室に集まり、「筑波日本語 e ラーニング」を各自で進め、質問がある時にはいつでも教員に質問をして説明を受けることができるなど、様々な授業形態での利用がなされた。また、留学生からは筑波大学に「留学する前に母国で『筑波日本語 e ラーニング』を利用して日本語を勉強していた」など、公開から時間が経つとともに、筑波大学外での利用者の声も順調に増加して聞かれるようになっていた。

また、今回の「筑波日本語 e ラーニング」の閉鎖は、「筑波日本語 e ラーニング」で利用していた Adobe 社の Flash の 2020 年末でのサポート終了とそれに付随する改修のための著作権等の権利処理が十分に行えないことを主な理由として 2020 年 3 月をもって閉鎖を決定していたが、その後、2020 年 2 月頃から日本でも新型コロナウイルスの感染が広がり、多くの教育機関で 4 月以降の遠隔教育の必要性が議論されるようになった。その一方で、多くの日本語教育機関から遠隔教育を行なう際のリソース不足に悩んでいるとの声が上がっていたことから、急遽、「筑波日本語 e ラーニング」の閉鎖時期を 2020 年 8 月末まで延期し、国内外の日本語遠隔教育として支援することとした。2020 年 10 月現在も遠隔教育を継続している機関が多いことから、閉鎖時期をさらに延期し日本語教育機関を支援していきたいと考えていたが、Flash のサポート期限が 2020 年末と迫っており、再度の延期や学期途中での閉鎖などかえって混乱を招く恐れもあったことから、予定通り、2020 年 8 月末をもって「筑波日本語 e ラーニング」は閉鎖とした。大規模コンテンツの閉鎖は日々遠隔教育拠点にとっても非常に残念なことではあるが、「筑波日本語 e ラーニング」の開発・運用で得られた知見や利用者からのフィードバックは今後のコンテンツ開発に活かしていきたい。

### 3. TTBJ の改修と HP の多言語化計画

日本語 Web テストの「Tsukuba Test Battery of Japanese」(以下、TTBJ)では、これまで「筑波日本語 e ラーニング」と同様に Adobe 社の Flash を利用していた。しかし、Flash が 2020 年末でサポートを終了することから、TTBJ も HTML5 を利用したコンテンツへ改修を行なった。改修に伴い TTBJ の利便性を高めるために作成した TTBJ の利用説明動画に加え、現在進めている TTBJ の HP の多言語化についても報告する。

#### 3.1 TTBJ の改修

TTBJ の改修にあたっては、TTBJ の開発メンバーである加納千恵子氏、小林典子氏、

酒井たか子氏（三名とも元筑波大学教員）と共に改修コンセプトを決定した。特に重視した点は、これまでのTTBJのユーザーや試験実施者にとって大きな負担とならないように、今回の改修によってデザイン等を変更せず、できる限りFlash版のデザインなどを保持した点である。一方で、これまで試験結果は個人受験であれば本人のみ、団体受験であれば本人と試験実施者にもみ伝えられる仕様であったが、今回の改修では本人や試験実施者以外にも受験者情報入力時に指定したメールアドレスがある場合には、そのメールアドレスにも試験結果が届くように改修した。これにより、調査などでTTBJを使用する際に本人以外にも調査実施者に試験結果を直接送付するなどの利用法が可能となった。

また、これまで個人受験の場合にはユーザーの所属機関の申告は用意されていなかったが、日々遠隔教育拠点は教育機関の連携を目指した教育関係共同利用拠点であることから所属機関の確認ができる仕様へと改修した。所属機関のリストは現在、これまでにTTBJを利用したことがある機関を中心にリスト化し、その他はテキストで入力する形式としているが、こちらも定期的にリストを更新することでユーザーにとって申し込みがしやすいように改良していく予定である。さらに、これまでTTBJの「受験までの流れ」はHPにテキストで記載しているだけであったが、今回の改修に合わせて説明動画を作成し、トップページに掲載した（図2）。



図2 TTBJの利用説明動画

### 3.2 TTBJのHP多言語化計画

前節で述べたように、令和元年度はTTBJを継続して利用してもらえるようにコンテンツの大規模な改修を行なった。この改修によって今後はより一層のユーザーの拡大を期待しているが、一方で令和元年度に日本語教育学会が主催している関西・四国・東北の「交流ひろば」で広報した際に、TTBJが日本語教育関係者にまだ十分に認知されていないことも明らかとなった。そこで、国内外のユーザーに広くTTBJを認知してもらえるように、現在、TTBJのHPの多言語化を進めている。多言語化に際しては、留学フェアなど筑波大学の海外拠点を通じた広報にも活用してもらえるように筑波大学の国際室にも多言語化すべき言語の助言をもらい、最終的には英語、ベトナム語、中国語（簡体字、繁体字）、スペイン語（欧州、南米）、ポルトガル語（欧州、南米）の8言語（地域バリエーションを含む）とした。この多言語化計画は2020年10月現在、進行中のプロジェクトではあるが、令和2年中に翻訳を完成させた後、可能な限り早めに多言語のページを公開する予定である。

### 4. 「にほんごアベニュー」の開発

「にほんごアベニュー」は、日本の生活で触れる日本語の会話例をCan-doに沿って提供することを目的とした初級日本語学習者向けのコンテンツである。本コンテンツの強みは、多様な人間関係・状況や、実生活で関わるとされる生活上の文化的要素を含んだ様々な日本語の会話例を収録している点にある。また、コンテンツ自体もWebブラウザ上で動作し、かつモバイル端末ではアプリのようにホーム画面に登録することができるプログレッシブウェブアプリ（PWA）として開発しており、PC・タブレット・スマートフォンのいずれの端末でも使用可能である。

「にほんごアベニュー」は国際交流基金が開発したJF Can-doのA1レベルのCan-do（みんなのCan-do サイトにて2019年4月25日にデータ取得）に沿って作成しており、Can-doが達成される会話例がCan-doごとに示されている。基本的に、一つのCan-doに対してスタイル2種（ですます体・普通体）・長さ2種（短い・長い）の計4種類の異なる会話例が収録されている。また、話者の関係性によって話し方が変化することを示すために、会話の話者にキャラクターとその人間関係を設定している。以下、「にほんごアベニュー」の主な機能について述べる。

まず、トップの検索画面では、学習者は「話者」、「場所」（「家」、「職場」、「学校」など）、「場面」（「あいさつ」、「トラブル」、「雑談」など）、「はたらき」（「謝る」、「尋ねる」、「褒める」など）を指定し、会話例を検索することができる（図3）。検索条件を指定した上で「検索」ボタンを押すと、「会話例一覧」画面に移動する。画面の左下にある「ランダム」ボタンを押すと、自動で要素の選択が行われる。「会話例一覧」画面では検索条件に合致

した各会話例の見出しが表示される。そこから見たい会話例の見出しを選択すると、「会話例詳細」の画面に移動する。



図3 検索画面

次に、「会話例詳細」画面では Can-do、文体・内容・話者に関する情報、会話の本文が表示される(図4)。「文体」では「ですます」(ですます体)・「カジュアル」(普通体)の選択によって会話の文体を切り替えることができ、「内容」では「複雑」・「シンプル」の選択で会話の長さを切り替えることができる。そして、「文体」の切り替えに応じて、「話者」の部分のイラスト・名前も切り替わる。会話例には音声も収録されており、会話例の下のスピーカーボタンを押すことで再生できる。また、スピーカーボタンの隣の葉形のボタンを押すことで、会話例を Can-do 単位でブックマークに追加することができる。ブックマークは、画面上部のブックマークボタンから閲覧可能である。「みんなの例文を見る」は表示中の会話の Can-do の「みんなの例文」に移動する。

「みんなの例文」では、Can-do に対してユーザーが自分で考えた会話例を投稿したり、他のユーザーが投稿した会話例を見ることができる(図5 - 左)。投稿された会話例には会話例本文に加えて投稿者のユーザーネーム、会話スタイル(ですます・カジュアル)、獲得した「いいね」の数が表示される。学習者は気に入った会話例に対してハート型の「いいね」ボタンを押すことで、リアクションをすることができる。「例文を作る」ボタンを押すと、投稿の入力ページである「私の例文」に進む(図5 - 右)。「私の例文」では会話の Can-do が表示され、文体を「ですます」・「カジュアル」から選択し、会話例を入力



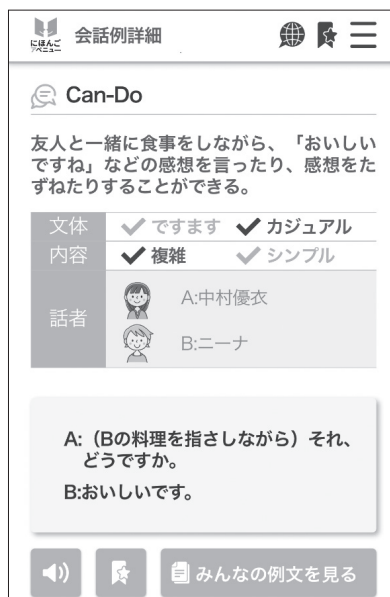


図4 「会話例詳細」画面

する。会話はAとB、2名の発話によって構成され、A→B→A→B→……と最大で8ターンまで投稿できる。

最後に、設定機能について述べる。本コンテンツでは会話例本文およびシステム表示言語を日本語表示もしくは日英語併記に選択でき、学習者は自分の学習スタイルに合わ



図5 「みんなの例文」画面（左）・「私の例文」画面（右）

せていつでも変更が可能である。また、その他の言語についても順次追加を予定している。さらに、ユーザーには多様な学習者が想定されることから、画面の表示色もデフォルトのカラー表示に加え、白黒表示・黒白表示に変更可能であり、文字サイズも小・中・大が選択可能（デフォルトは「中」）など、ユニバーサルなデザインとしている。

本コンテンツの利用によって国内外の学習者が一つの Can-do であっても、様々な日本語の会話のバリエーションに触れることが可能となる。本コンテンツは現在も制作中であり、本稿で紹介した機能・デザインは今後、変更の可能性もあるが、よりユーザーに使いやすいものへとブラッシュアップしていきたい。

## 5. 「にほんご 123」のドメイン変更

文法学習アプリの「にほんご 123」は従来、<http://nihongo123.com> というドメインを使用していたが、このドメインは開発当時在籍していた教員が個人で保有していたものであり、この度、このドメインを返還する必要性が生じたことから、新たに取得した <https://nihongo123.cegloc.tsukuba.ac.jp> という学内ドメインを利用した URL へ変更した。ドメイン変更はこれまでのユーザーにはブックマークの変更など不便をかけるものとなったが、ドメインの変更に合わせて https へ変更することで、セキュリティを強化したドメインへの移行も同時に行なうことができ、長期的な視点での安全なコンテンツ管理へとつなげることができた。

## 6. ロシアの日本語教育事情に関する講演会

2019年10月29日にはモスクワ市立教育大学（ロシア）のミソチコ・グリゴリー（MISOCHKO Grigoriy）上級講師による講演会「ロシアにおける日本語教育の課題－遠隔教育と今後の共同教育研究について－」（主催：日日遠隔教育拠点、協力：公益財団法人日本財団）を開催した（図6）。講演会では、広大な土地を持つロシアでの教師のネットワークの構築の難しさが挙げられたが、ビデオ会議システムを利用するなどして少しずつつながっていく様子が語られた。また、筑波大学ともこのような形式で交流することができれば、より大きな国際的教育研究交流にもつながるとの期待が寄せられた。日日遠隔教育拠点にとっても海外の教育機関や日本語教育関係団体と関係を構築していくことは今後の発展に重要であり、非常に重要な示唆となった。

## 7. ニュースレター開始

日日遠隔教育拠点の第2期の課題の一つとして広報力の強化があり、この点については第2期においても Facebook や Twitter を利用した SNS による情報提供を開始するなど、注力をしてきた。SNS などを利用して不特定多数の人々に日日遠隔教育拠点の



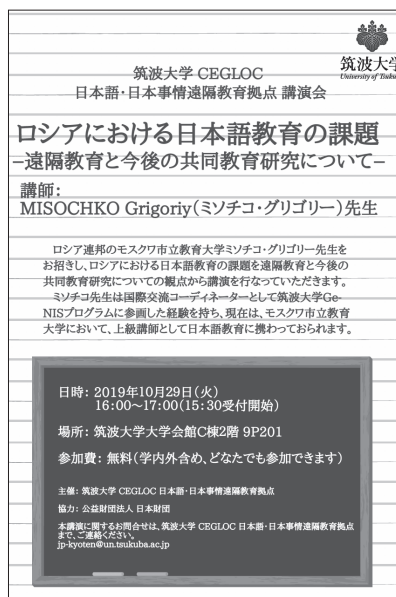


図6 ミソチコ・グリゴリー上級講師による講演会ポスター

情報を提供する広報形態は、日日遠隔教育拠点や日日遠隔教育拠点で開発されたコンテンツの存在を知らない人たちに届ける際には非常に重要な広報形態の一つである。しかし、Facebook や Twitter などの SNS 上での情報提供は一過性の情報提供となってしまうがちであり、日日遠隔教育拠点の情報を求めているにも関わらず投稿と閲覧のタイミングが合わずに日日遠隔教育拠点の情報を見逃してしまう利用者があることも懸念された。このことから日日遠隔教育拠点では 2020 年 3 月より SNS での広報に加え、これまでの拠点イベント等への参加者にメールによるニュースレターの配信を開始した。ニュースレターでは最新の日日遠隔教育拠点の活動報告に加え、これまでに開発したコンテンツの使い方を説明する記事や、出張ワークショップのお知らせなどを掲載することで、SNS の広報では伝えきれない多様かつ多くの情報を提供できるようになった。現在は約半年に 1 回のペースでニュースレターを配信しており、今後も継続して様々な情報を配信していけるよう、日日遠隔教育拠点の活動もさらに活発化させていく予定である。

## 8. 今後に向けて

日日遠隔教育拠点の第 2 期から第 3 期への移行期はコンテンツの終了、コンテンツの改修、コンテンツの開発と日日遠隔教育拠点の活動の一区切りを象徴するような一年でもあった。新たに始まる第 3 期の 5 年間はコンテンツ開発・人材育成・産学連携と 3 つの柱を中心に日日遠隔教育拠点の活動はさらなる拡大に向かっていくが、これまでの知見をしっかりと活かし、着実な活動と成果に結びつけていきたい。

## 参考文献

- 市原明日香・古川雅子・石川浩一郎・飯田将茂・李在鎬・今井新悟 (2012) 「日本語・日本事情遠隔教育拠点にて企画中の e ラーニング教材について」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』27号：67-80
- 今井新悟・李在鎬・吉田麻子・信岡麻里・古川雅子・堀聖司・朴眞煥 (2013) 「日本語・日本事情遠隔教育拠点報告 2012」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』28号：351-364

## 参考資料

- 筑波大学グローバルコミュニケーション教育センター 日本語・日本事情遠隔教育拠点  
<http://www.intersc.tsukuba.ac.jp/~kyoten/> (2020年9月30日閲覧)
- みんなの Can-do サイト  
<https://jfstandard.jp/cando/top/ja/render.do> (2020年9月30日閲覧)